参考２

２０２５年国際博覧会検討会　報告書（案）
～関西弁バージョン（試作品）～

平成２９年３月

　これは、関西・大阪で万博やる話やし、せっかくやから「２０２５年国際博覧会検討会報告書（案）」の開催意義、基本理念（骨子案）、テーマ・サブテーマ（案）を、関西弁で表現したものや。
　「関西弁」ちゅうのは実際ないけどな。あと、こんな言い方せーへんとか、細かいこと言わんといてな。とにかく大目にみてくれると助かるわ。

第１部　2025 年国際博覧会のコンセプトっちゅうやつ

１．開催したら何がええか

2025 年国際博覧会の開催意義は、ザクっと言うて 4 つの視点に分けられると思うねんで。(1)「国際博覧会そのもののええとこ」に加えて、(2)「2025 年にやるええとこ」、(3) 「世界にとって日本、関西・大阪でやるええとこ」、(4) 「日本、関西・大阪にとってええとこ」の 4 つやな。

（１）国際博覧会そのもののええとこ

国際博覧会は、国際条約に基づいたたった一個しかあらへん国際的イベントやっちゅうのとともに、中央政府が開催及び参加をどないするか決める国家的イベントやねん。

1851 年の（ふるっ）ロンドン国際博覧会以降の約 165 年の歴史（ながっ）の中で、国際博覧会はそれぞれの時代の感じに合わせて、その意義をうまい具合に変えてきよった。

19～20 世紀前半においては、じぶんとこの国の産業とか技術のものすごい感じを展示することで、「どや、イケてるやろ」と言うのが中心やった。でも人類は、えげつない二度の世界大戦と環境破壊を経験して、「科学技術が何でも解決してくれるやろ」っちゅう考え方の限界とか矛盾がバレバレになったから、国際博覧会に「人類共通のゴチャゴチャを解決する方法」を提言する場としての役割を求めるようになったんや。

そんなこんなで、現代の国際博覧会は、人類共通のゴチャゴチャをええ感じに解決するアイデアを発信すると同時に、異なる知と知がガッチャンコすることで新しいアイデアが生まれる場としての意義を持ってるんや。アイデアは、ごっつい先端の技術だけやのうて、社会制度や価値観、文化を反映させたむっちゃ種類があってむっさ幅広いものになるねん。

さらに、今まで一ミリも知らんかった文化や価値観を知ったり、世界の人々が「もうかりまっか」言うて出会って、たこ焼き食べながら交流するような場であることも大事や。偏見をほかして、「ぼちぼちでんな」と言い合える仲になる意義もデカいわな。

他方、国境を越えた人々の行ったり来たりが増えて、インターネットがビビるほどの速さで普及していく現代において、単にえげつない技術を「どや」言うて見せたり、その道のめっちゃ詳しいおっさんが交流するだけやったら、相対的にやる意味も小さなってくるから、国際博覧会に参加すると何がええかっちゅうのを最大化する、おニューの試みをむっさ考えなあかんと思ってる。

例えば、70 億人以上の世界人口のうち、会場に入れんのはほんの一握りや。お好み焼きで言うたら、かかってる青のりのうちの一粒くらいや。せやけど、会場に行かれへん人とか、外国を知る機会が少ない人らこそ、国際博覧会の知恵とか体験を一緒にわけわけするべきやと思うねん。情報通信とか仮想現実とかパンチがきいてる技術を使いまくって、距離の壁に「そんなもん関係あるか、ボケ」と言うたることが、21 世紀の国際博覧会に求められてるんやと思うねん。（同時に、会場に来る意義をええもんにするためにも、サイバー上やなく、「まいど!」ってな具合に言えるような、対面やからこそ得られる交流の実現もめっちゃ大事や。）

（２）2025 年に開催すると何がええか

①物質的豊かさを欲しがりよった半世紀前の高度経済成長期の国際博覧会。精神面も含めた質的豊かさがむっちゃ大事な成熟期の国際博覧会。おんなじ大阪の地でその二つを比べながら、おニューの将来像を描く。
②多くの国で高齢化が進んどる。社会・経済システムをぐわーーっと変えなあかんタイミングで、いくつかの解決策をどばーーーっと出したい。
③2015 年のミラノ国際博覧会のテーマである「食べもん」、2020 年のドバイ国際博覧会のテーマ「つながり」、これらの学びを新しい地域で、ほんまもんにしていく。

（３）世界にとって、日本や関西・大阪で万博を開催すると何がええか

①日本にとって、何がええか

ウチら日本には以下のようなイケてるとこがあるよってからに、世界における未来社会の実験場として、おニューのアイデアを実践して、世界的イノベーションのアクセルをベタ踏みできる場にすることが可能や。

ア.未来社会を考える上で鍵になる要素が揃いぶみしとる。
a)世界トップレベルの科学・技術力をもっとる。ドンパチやるためやのうて、平和目的でのみ開発してそれらをつことる。
b)周囲のことをめっちゃ考える心を持っとる。
（例：ブラジル W 杯でのゴミ拾い、震災時のボランティアや助け合い）
c)めっちゃ短い期間でどれくらい儲かったかという考え方だけやなく、長ーーい目で見てどれくらい儲かったかを考えられる「商人（あきんど）の精神が」根付いとる。
d)GDP 世界第 3 位の資本主義経済の国やのに、中間層がミナミのタコ焼きのタコぐらいブ厚く、制度面で資本主義経済の弱みである格差を是正しとる。
e)長寿命化、高齢化のトップを爆走しとるし、予防医療や 65 歳以降も気張って働き続けられる環境整備の推進など、めっちゃ先端的な取組をやっとる。よその国は日本の課題や対策の成果をパクりながら対策を考えていけるっちゅうわけや。
f)「一億総活躍社会」っちゅう、みんながそれぞれの能力をドカンと発揮でけて、「だいぶええわ」と生きがいを感じることができる社会を、もうすでに政策目標としとる。
g)自然災害を「よっこらせ」と乗り越え、災害に強いインフラをこしらえ、危機対応訓練をめちゃくちゃやっとる。そして自然災害にキャン言わされても、自然を「敵や！」と言うんやなく、畏敬の念を持ちながら、一緒に仲ようやっていく社会を目指しとる。

イ.日本は、多様な文化・価値観を「おおきに」言うて受け入れてきて、ガッチャンコさせてきた歴史と風土がある。例えばよその国の食べもんを、和食とがっちゃんこして発信するとか、各国の文化発信にええ感じで貢献できる。

ウ.思想的にタブー（バブーちゃうで、タブーやで）がなく、せやから参加する人ら自体が、自由な思想と発想を発信できる。そないな場をウチらはこしらえることができる。

エ.治安がムチャクチャええ。世界で最も安全な開催環境を用意させてもらえるで。

②関西・大阪で開催する意義

ア. うまい和食とか、伝統芸能とかお笑いとかがあって、豊かな文化の発信地や。質的な豊かさを実感できるんや。

イ. 日本で 2 番目の都市圏で、関西国際空港とか大阪湾とかあるから、海外から来んのがめっちゃ楽。あと、鉄道やバスなど都市機能をバッチリやらせてもうてます。正確な時間で運転するし、ほんまええ仕事するで。

ウ. 大阪商人の「商ハ笑ニシテ勝ナリ」や近江商人の「三方ヨシ」という言葉に代表される「売るオッサンだけやなく、買うオッサンも満足して、社会貢献もやってまう商売」を尊敬する考えの発祥地や。おニューの経済システムをわーきゃー議論するのにふさわしいんや。

エ. 阪神大震災から 30 年経った 2025 年に、自然災害を乗り越えた姿を見て欲しんや。

オ. ほんまにレベルの高い技術を持ったものづくりの会社とか医療研究拠点がめっちゃ近場にあるよってに、みなさんが日本に来はった時に、イノベーションの具体化ができるんちゃうかと思てる。

（４）日本や関西・大阪にとって何がええか

①日本にとって何がええか

ア. 日本的ええとこを発信するとともに、人類共通のゴチャゴチャの解決に貢献することで、国際社会における日本への理解・信頼をどかーんと向上できる。

イ. ラグビーワールドカップ 2019 日本大会、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲーム 2021 でできたレガシー（セクシーちゃうで　レガシーやで）を継承できる。

ウ. 次世代のイキのええクリエイターや、やんちゃなチャレンジャーの活躍の機会になる。

エ. 会期中の経済活動がにぎやかになって、イノベーションが生まれて、おもろいもんがぎょうさん出てくる。

②関西・大阪にとって何がええか

ア. ライフサイエンス分野、食べもん、起業家（やってまえ）精神などの強みを生かして、イノベーションのケツを叩ける。

イ. 心身ともにええ具合になり、いろんな文化や価値観が仲よう共生する、誰もが住みやすい地域づくりを促す。

ウ. 関西のいろんな地域で、国内外の人が観光でぎょうさん来るのが期待できる。
また、瀬戸内海からめっちゃ近い夢洲の立地を生かして、四国・中国の観光資源とのお互いにとってええ感じの効果が期待できる。

２．基本理念（骨子案/骨ちゃうで、骨子やで）

①これから人類は、どんな具合で生きていったらええか

46 億年という地球の歴史（ながっ）から見れば、数百万年という人類の歴史は短く思うかもしれへん。せやけどウチら人類は、この短い歴史の中で、ぎょうさん創造をしてきたんや。

例えば、自然災害や、食糧不足、病、暴力などの様々な生存リスクを減らして、社会をええ感じに安定させながら発展させるために、安全や平等などを確保する法律や行政組織、社会保障制度等の社会システムや、市場経済や資本主義経済などの経済システムを整備し、科学技術を発達させてきた。未だ、こうした生存リスクに直面してる人らは少なくないんやけど、人類はこの課題の克服にチャレンジしまくってる。

一方でグローバル化や情報化が競争をめっちゃデカくして、激化させとる。競争によって生まれる格差は、富をわけわけする機能がちゃんと働かへんかったら、機会の不平等や貧困につながりよる。人々は競争とやりすぎの効率化の中で余裕がなくなってもうて、寛容さをどっかやってもうて利己的になってもうたり、疎外感や怒りを感じてまうから、対立が顕在化する感じになってまうのは否定でけへん。

また人工知能やバイオテクノロジーなど、人間の生き方を「どないやねん」と問い直してきよる新技術の発展は、人類発展の更なる可能性と共に、想定を越えた影響が起きないかビビってまう気持ちと、それやからこの技術を使ってええか迷う気持ちを生みよる。

こうした事象は、ウチら人類に、「幸福な生き方ってなんやねん」と問いかけとる。
無論この「幸せ」はみんな一緒やない。それぞれが考える「輝く姿」は人それぞれや。
１人１人がそれぞれの能力を活かして、キンキラキンに輝ける社会ってどんなんなんやろな。
むっちゃむずいわ。

これらの社会的課題は、人類がこしらえたシステムに由来しとる。ほんなら人類には、おニューな発想で技術をええ感じに活用して、社会・経済制度をデザインすることで解決策を「どや」ゆうて提示していく力があるはずやねん。実際にこれまでも、人類はいろんな社会的課題をおニューな発想や技術で乗り越えてきたやないか。

②好奇心をバンバン刺激して、幸せな生き方と社会・経済の未来像を仲よう創っていく

2025 年国際博覧会は、こうした「どうなん？」という問いかけに対して、課題や未知のもたらす「ビビってんちゃう？」ってな感じを煽るんじゃなく、体験を通じて好奇心をバンバン刺激することで、いろんな課題を克服しながら１人１人のいのちが輝く生き方と、それを可能にする社会・経済の未来像を参加者全員で仲よう創っていく場となりよる。

こうした未来像を、単に１人で思い描くだけやったら全然足りへん（寂しいしな）。古今東西のめっちゃ多様な価値観を持っとる人々の交流によるイノベーションと相互理解によってのみ、現実のものとなっていく可能性が開けるっちゅうもんや。こうした交流は、相手の人間性をめっちゃ尊重して、共感を喚起することで、調和的な世界をこしらえることにもつながってくんや。

さらに１人１人の生き方自体も、体験・交流して気づくことを通じて、より豊かなもんにデザインし直せる可能性があるわな。

そして参加者によるおニューの気づきと行動によって、みんなが「ええなあ」言う未来社会が現実になっていくと思うねん。

1960 年代に高度経済成長を実現して、みんなの幸せの基盤となる社会・経済システムをちゃんと確立した日本は、1990 年代以降、世界に先立って高齢化がズンズン進んでるとともに、格差を始め、めちゃくちゃたくさんの社会的ゴチャゴチャがバレてきよった。

日本は、「みんなであんじょうやろや」の精神により、多くの人々が幸せになれる助け合いの社会システムをこしらえてきた経験を踏まえ、１人１人が自分のポテンシャルをぶわーっと発揮しながら真の豊かさを感じられる生き方、そうした多様で調和した生き方を支える持続可能な社会・経済システムを「どや」言うて見せることで、人類の持続可能な発展にお役に立ちたいんや。

３．テーマ・サブテーマ（案）

基本理念をええ感じに踏まえ、テーマ（案）は以下のとおり提案する（どや）。

いのちがキンキラキンに輝く未来社会のデザイン
「Designing Future Society for Our Lives」
（横文字苦手やけどな）

なお、今後基本理念を更にガッツンガッツン深掘りして、サブテーマを検討していくことにするんや。

本検討会では、サブテーマ（案）や表現方法を以下のとおり整理させてもうた。

〈サブテーマ（案）〉
◆多様で心身ともに健やかな、めっちゃええ生き方
◆持続可能な、めっさいけてる社会経済システム

「体験」、「交流・対話」、「科学・技術」「多様な文化・思想」を通じてテーマ・サブテーマや基本理念を実感する万博としたいんや。